

被害者名：

日付：

完成書類は機密

IDVA および警察以外の機関⁴が使用する CAADA-DASH リスク評価チェックリスト。家庭内暴力、「名誉」を理由とする暴力およびストーキングが発覚した場合にリスクを特定することを目的とする。

質問の目的が対象者の安全と保護のためであることを説明してください。 当てはまるものにチェックしてください。回答を説明する場合は質問票最後のコメント欄に記入してください。 主要情報源は被害者であると仮定しています。 <u>被害者でない場合は右端の列に示してください。</u>	はい	いいえ	わからない	被害者以外の情報源（警察など）を記入
1. 最近の事件で怪我しましたか？ (どんな怪我か、最初の怪我か教えてください)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
2. とても怖いですか？ コメント：	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
3. 何が怖いですか？ さらなる傷害や暴力ですか？（加害者がするかも知れないこと、また子供も含めて誰に対してするかについてあなたの考えを示してください。） コメント：	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
4. 家族や友人から隔離されていると感じますか？ つまり（加害者）があなたを友人・家族・医者などの他人に会わせないようにしていますか？ コメント：	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
5. 落ち込んだ気分であるか、自殺を考えていませんか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
6. この1年間、（加害者）から離れている、または離れようとしていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
7. 子供と会うことについて争いがありますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
8. （加害者）は日常的にあなたにメールや電話や接触をしたり、あとを付けたりストーキングや嫌がらせをしたりしていますか？（何をされたか、あなたを脅そうと故意に行われたと思うか、にまで拡げて考えてください。状況や行動のし方も考えてください）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
9. 妊娠中ですか？ あるいは最近子供を産みましたか？（18 ヶ月以内に）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
10. 虐待の頻度が増えていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
11. 虐待はひどくなっていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
12. （加害者）はあなたのやることすべてを管理しようとしていますか？ 非常に嫉妬深いですか？（関係については、家でも見張られていると感じますか？ 例えばあなたの着る服を命令するなど。「名誉」が理由の暴力を考え、行動を指摘してください）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

⁴ 注：このチェックリストは ACPO 公認の警察用リスクアセスメントモデル DASH 2009 に適合している。

被害者名：

日付：

完成書類は機密

当てはまるものにチェックしてください。回答を説明する場合は質問票最後のコメント欄に記入してください。	はい	いいえ	わからない	被害者以外の情報源を記入
13. (加害者)はあなたを攻撃するために武器や物を使ったことがありますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
14. (加害者)はあなたか誰かを殺すと脅したことがありますか？あなたはそれを信じましたか？(はいの場合下記にチェックしてください) あなた <input type="checkbox"/> 子供 <input type="checkbox"/> 他人() <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
15. (加害者)はあなたを絞め殺そうとしたり窒息死させようとしたり溺れさせようとしたことはありますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
16. (加害者)は性的意味のあることを言ってあなたを不愉快にさせたりあなたや誰かを身体的に傷付けたりしますか？(他人なら誰か教えてください)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
17.他に誰かあなたを脅す人やあなたの恐れる人はいますか？(いるなら、誰か、またなぜか教えてください。HBVの場合は拡大家族に広げてください)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
18. (加害者)が誰かを怪我させたか知っていますか？(誰か教えてください。子供、兄弟、高齢の家族なども含め。HBVも考慮) 子供 <input type="checkbox"/> 他の家族 <input type="checkbox"/> 以前関係のあった誰か <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
19. (加害者)は動物やペットを虐待したことがありますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
20. 金銭的問題はありますか？例えば、金銭的に(加害者)に依存していますか？(加害者)は最近失業しましたか？それ以外の金銭的問題は？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
21. (加害者)はこの1年間に薬(処方薬その他)、アルコール、精神衛生で問題を抱えて日常生活が困難になったことがありますか？(はいの場合どれかを選び、ご存じなら説明してください) 薬 <input type="checkbox"/> アルコール <input type="checkbox"/> 精神衛生 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
22. (加害者)は自殺の恐れがあるか、または自殺未遂を起こしたことがありますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
23. (加害者)は今まで保釈や禁止命令、またはあなたや子供との面会に際しての正式合意を破ったことがありますか？(可能ならば加害者の元パートナーとしての立場で考えたいかも知れません) 保釈条件 <input type="checkbox"/> 性的虐待・同居禁止命令 <input type="checkbox"/> 子供接触協定 <input type="checkbox"/> 強制結婚保護命令 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
24. (加害者)が以前警察沙汰を起こしたことがあるか、犯罪歴があるか知っていますか？(はいの場合選択してください) DV <input type="checkbox"/> 性的暴力 <input type="checkbox"/> その他の暴力 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
「はい」の回答数				

被害者名：

日付：

完成書類は機密

専門家による検討用：何か（被害者か専門家から）リスク水準を高める情報はありますか？ 被害者の状況を考慮してください。障害、薬物乱用、精神衛生問題、文化的・言語障壁、「名誉」を重視する風習、地理的な隔離状況や最小化など。被害者はあなたのサービスに参加する意思はありますか？

虐待者の職業・興味について — 独自に武器を手に入れられますか？

被害者の安全を確保するために、被害者にとって何が最重要ですか？

この案件を MARAC に照会するに十分な根拠がありますか？ はい / いいえ
はいの場合、照会済みですか？ はい / いいえ

署名：

日付：

家庭の子供がリスクにさらされていますか？ はい / いいえ
はいの場合、子供を保護するために照会したかどうか確認してください。はい / いいえ

照会日 _____

署名：

日付：

氏名：

医師コメント

--

CAADA 推奨の IDVA サービス用虐待深刻度表⁵

この表は CAADA 推奨リスク評価チェックリストと共に使用するために作成された。この表の目的は、クライアントの受けている虐待の特徴を具体的につかむための枠組みとなり、情報を提供しながら、一貫した方法で被害者の安全を確保できるようにすることである。また、MARAC に照会される案件に関する情報も提供する。

これを完成させるには、チェックリストの関連する質問から回答を抜き出して、現在進行中の各カテゴリーの虐待について、深刻度とエスカレートの程度を詳細に調査する。深刻度の特定方法については下記を参照のこと。

「虐待が進行中」に「はい」と回答した場合は、右の 3 列(深刻度、深刻度・回数のエスカレート)にも該当するものに丸を付けてください。

虐待の種類	虐待が進行中	虐待の深刻度	深刻度のエスカレート (過去 3ヶ月間)	回数のエスカレート (過去 3ヶ月間)
身体的	はい いいえ 分からない 回答なし	高い 中程度 標準	悪化 変わらず 軽減	悪化 変わらず 減少
性的	はい いいえ 分からない 回答なし	高い 中程度 標準	悪化 変わらず 軽減	悪化 変わらず 減少
ストーキング・嫌がらせ	はい いいえ 分からない 回答なし	高い 中程度 標準	悪化 変わらず 軽減	悪化 変わらず 減少
嫉妬・支配しようとする行動、感情的虐待	はい いいえ 分からない 回答なし	高い 中程度 標準	悪化 変わらず 軽減	悪化 変わらず 減少

⁵ 表とガイダンスはヘスティア・ファンドの好意による同意を得て複製している。

被害者名：

日付：

完成書類は機密

医師コメント

虐待深刻度表作成のためのガイド

注:このガイドは上の虐待深刻度表を完成させる際の手引きである。ただし、どの案件も他とは異なるものであり、クライアントから得た情報に対しては専門家として独自の判断を下さなければならない。当該行動または似たような行動の起こった状況はすべて、深刻度の水準を特定するのに重要である。例えば、アルコールを含む薬物の乱用は個人の直面するリスクを高める。同様に、虐待の行われた文化的状況からもリスク水準に関する判断を考えなければならない。

身体的虐待			
なし	標準	中程度	高い
今までなし、または現在なし	平手打ち、押し 怪我なし	平手打ち、押しで、痛みが続く、軽い傷、または浅い切り傷	顕著な傷、裂傷、痛み、重い打撲、やけど、骨折。パートナー、子供、親戚またはペットを殺すという脅しと試み。首絞めまたは水中への押さえ込み、意識消失。武器の使用(またはその脅し)。頭部外傷、内部損傷、永久損傷、流産
性的虐待			
なし	標準	中程度	高い
今までなし、または現在なし	性的侮辱	圧力をかけてセックスしようとする。嫌がっているのに触る。暴力的でないが被害者が性や性別同一性、性的指向で不快になることをする	脅迫または力づくでセックスしようとする。レイプ。酷い性的暴力。故意にセックスで苦痛を与える。武器を含めセックスと暴力を同時に行う。子供に性的虐待を加え、パートナーに見るよう強制する。売春の強要。故意にSTI/HIV/AIDSに感染させる。
嫌がらせとストーキング			
なし	標準	中程度	高い
今までなし、または現在なし	時々電話をかけ、文章やメールを送る	頻繁に電話し、文章やメールを送る	絶え間なく/執拗に電話し、文章やメールを送る、家や職場を不意に訪れる、またはうろつく。所有物を故意に破壊する。離別後被害者を追跡、ストーキングする。被害者やその家族に自殺する、殺すと脅す。性的暴力の脅迫。ストーキング行為で他人を巻き込む。

嫉妬・支配しようとする行動、感情的虐待			
なし	標準	中程度	高い
今までなし、または 現在なし	被害者の時間を説明させる。家族、友人、支援ネットワークから少し隔離する。公衆の面前でけなす。	被害者の時間の管理を強める。家族友人からきつく隔離する。メールや電話を盗み見・聞きする。お金の入手を管理する。理不尽に不貞を責める。パートナー・妻・母としての役割を頻繁に批判する。	被害者の日常活動のほとんどまたはすべてを管理する。医療やケアへのアクセスを妨げる(特に障害者に対して)。絶対服従、例えばパートナー、パートナーの奉仕、服従、忠誠など何でも絶対的に得る資格があると考えられる。極度の嫉妬、例えば必ずそうなるという信念のもと「彼女は自分だけのものだ」と言う。被害者を閉じ込める、または移動を極端に制限する。子供を連れて行くと脅す。自殺・殺人・家族殺しの脅し。拡大家族を巻き込む。「名誉」の名目で犯罪を犯す。家族や宗教団体、地元コミュニティに、オンライン(フェイスブックなど)や公共の場所で性行為の写真をさらすと脅す。

IDVA の CAADA-DASH リスク評価チェックリスト使用ガイド

はじめに

このガイドは IDVA⁶⁶ が成人の虐待被害者と思われるクライアントとリスク評価チェックリスト(RIC)を作成し、MARACで査定すべき案件を特定する際に役立つ手引きである。その内容はその他の医師にも適用できるが、具体的な安全計画のオプションは機関やその役割によって異なる。下記の注意事項は、医師が RIC で質問をするとき、および状況を把握してクライアントのリスクを特定するために必要な追加質問を決める際にも役立つ。

チェックリストの使い方

- ✓ チェックリストにあるすべての質問を尋ねることが非常に重要である。
- ✓ 初めてクライアントと作業する前にチェックリストに慣れておき、質問の関連性や意義について自信を持てるようにする。
- ✓ 自分が提供・実行できる安全計画手段を意識し、専門サービスを含めてクライアントを照会できる現地・国内のリソースを熟知しておく。
- ✓ 被害者に答が分からない場合は「分からない」という選択肢がある。「いいえ」を選ぶとリスクが誤って低くなる場合にこれを選ぶ。またこれは機関や MARAC にとって何の情報をもさらに集めなければならないかを示す指標となる。

⁶⁶ このガイドは IDVA を想定して作成されているが、チェックリストの試験運用の際に他の専門家にも使用された。安全計画の選択肢の中にはすべての専門家に当てはまるわけではないものもある。

いつチェックリストを使用するか

RIC は、あなたに現在の虐待について告白したクライアント全員に、クライアントの直面する可能性のあるリスク水準を特定し、適切なサービスを提供するために使用する。最近3ヶ月間に何らかの家庭内暴力(心理的、金銭的、性的、身体的虐待を含む)がある場合、誰かが「現在の」虐待の被害者となる。ただしこれは絶対ではない。リスクは変化し、クライアントの状況もそれぞれ異なる。そのため専門家が状況ごとに案件を個々に検討することが大切である。

- ✓ クライアントと初めて接触したときにこのチェックリストを完成させるのがよい。
- ✓ チェックリストの質問には静的リスク・動的リスクに関するものがある。静的リスクとは変化しないもの、例えば、加害者が今までに被害者または他人を殺すと脅迫したことがある、または加害者が自殺すると脅したこともしくは自殺未遂を起こしたことがある、などである。他に動的リスクを調査するものがあり、例えば妊娠、金銭的問題、または性的虐待についてなどである。RIC の質問が「現在」についての場合(例えば「現在の事故で負傷したかどうか」)、「現在」の定義は3ヶ月以内とする。
- ✓ 従って、実際には RIC は過去に起こった家庭内暴力に適用するのは簡単ではない。つまり、ほとんどの虐待が終わっていてクライアントは緊急サービスでない一般的な支援が必要な場合などである。(注: 現在・最近の虐待は感情的・身体的・金銭的・性的・心理的虐待の範囲をカバーする。)

チェックリストは誰に対して使用するべきか

- ✓ 通常、このチェックリストは家庭内暴力の成人被害者と作成する。ストーキングや「名誉」を理由とする暴力も含む。ただし、警察など他の専門機関から特定の情報を取れることもある。その場合はフォームにその旨記載しておく。
- ✓ クライアントから明確な許可がない場合に他の家族から情報を得る場合は特に注意を要する。場合によってはそれ自体が脅威となる。

証拠

- ✓ 指標は加害(容疑)者の行動や状況に関するファクターと、被害者に関するファクターでまとめることができる。当該ファクターの根拠となる調査証拠のほとんどは、現在または過去に親密な関係にあった男性加害者と女性被害者との間の虐待に特化している。
- ✓ 一般的にそのリスクファクターはさらなる攻撃のリスクに関連するが、一部は殺人のリスクにもつながっている。また「名誉」を理由とする暴力に関連するファクターにも焦点を当てている。この点は必ず真剣に検討しなければならない。

クライアントへのチェックリスト紹介

質問を始める前に、機密保持、情報共有および MARAC 照会方針をクライアントに説明することが重要である。こうして、クライアントの開示した情報がいつどのように使用・公開されるかが透明かつ明確になる。可能ならば、クライアントに対して、当該方針を了解し同意する旨の確認書に署名するようお願いする。または、電話で説明し、方針を了解し同意する旨確認してから彼らの代理として自分で署名する。

チェックリストを開始する前に、次も収集すると便利である。

- ✓ クライアントとどの程度の時間話が必要か
- ✓ 電話が切られている場合または緊急で離れている場合のクライアントへの安全なコンタクト先について
- ✓ 加害者が近くにいるか、ある時間に帰ってくるか、またはその可能性が高いか
- ✓ 電話の場合は、今話しても大丈夫か
- ✓ クライアントのリスクという概念を紹介し、質問をする理由を説明する

また、レズビアン、ゲイ、バイセクシャルまたはトランスジェンダー(LGBT)の人は、サービスにアクセスする場合家庭内暴力と自分の性的指向または性別同一性を両方とも告白しなければならないことに注意する。安全でアクセスしやすい環境を作り、被害者に情報開示しやすい気持ちにさせ、さらに性別に中性的な言葉、例えば(元)パートナーなどを使うべきである。

この実用ガイドの使い方

以下の実用ガイドはチェックリストの質問の順序に合わせて作られている。各質問の意味、追加の質問、その調査が何のリスクファクターに関連しているかが説明されている。

用語の使い方について

IDVA ではサービスに照会された人を「クライアント」と呼んでいる。「被害者」「生存者」という用語は他の機関や調査中によく使われる。この文書では状況に応じて「クライアント」と「被害者」という言葉を同じ意味で使用している。

チェックリストを使用するための段階的ガイド

Q1. 最近の事件で怪我しましたか？

実務上の要点: 怪我の程度を理解して今何らかの行動が必要か判断する。

- ✓ 事件発生はいつ？
- ✓ どのような怪我を負ったことがある？
- ✓ 以前の怪我と比べてどうか？ 過去最悪の負傷と事件について確認してください。
- ✓ 被害者はすぐに医師の診断を受ける必要がある？
- ✓ この事件は警察に通報したか？

Q2. とても怖いですか？

Q3. 何が怖いですか？さらなる傷害や暴力ですか？

実務上の要点: 加害者がやりそうなことに関連して、被害者の恐怖を理解しようとする。次を把握することが重要である。

- ✓ 被害者は何を恐れているか？
- ✓ 被害者は誰を恐れているか？誰が加害者か特定することが重要である。拡大家族の暴力では、家庭内に加害者が 2 人以上いて、拡大家族やコミュニティに属しているかもしれない。彼らがどこに住んでいるか把握し、リスク管理・安全計画に組み込むとよい。
- ✓ 被害者は誰を気遣っているか？(自分自身・子供・兄弟姉妹・パートナー・親)
- ✓ 被害者は、加害者がなにをしようと思っているか？加害者に何ができると考えているか？被害者・子供・兄弟姉妹・パートナー・親に対する身体的・性的虐待または殺人などがありうる。強制的に婚約または結婚させられるとか、外国に拉致されるという恐怖もありうる。加害者やその仲間からの継続的なストーキングや嫌がらせを恐れている場合、殺人につながる可能性があるので注意を要する。執拗なストーキング行為は本文書最後に掲載の虐待表で参照する。このような恐怖は慎重に記録する。
- ✓ LGBT のクライアントは、加害者が被害者の性別同一性や性的指向を友達や親、同僚に暴露するのではないかと恐れている。

被害者が安全をどう捉えているか、また加害者がやりそうなことは何か、被害者の話をよく聞くことが大切である。被害者が非常におびえていること、さらに怪我や暴力を受けること、または殺されることを恐れていること、また子供が被害を受けるかもしれないと思っていることを報告した場合、被害者がさらに暴力、脅迫および感情的虐待を受ける可能性は著しく高くなる (Robinson, 2006a)。

被害者は加害者が被害者やその重要な他者に危害を加える能力について身をもって知っている。「名誉」を理由とする暴力に関しては、家族の動態や「名誉」を重視する風習を理解している。ただし、虐待を最小限にとどめて虐待について自分を責めるのは、家庭内暴力の被害者には一般的なものなので、医師は現在の脅威や行動を懸念材料と捉えないこともある。専門家としての知識を駆使し、被害者についての懸念を記録し、RIC と MARAC 情報共有プロセスで注意を喚起することが重要である。逆に、被害者が安全についてひどく心配していると表明した場合は、それを真剣に捉えるべきである。

Q4. 家族や友人から隔離されていると感じますか？つまり[加害者名]があなたを友人・家族・医者などの他人に会

わせないようにしていますか？

実務上の要点:加害者はたびたび家族友人など普通の支援ネットワークから被害者を隔離しようとする。安全計画の観点では、この隔離の程度をつかみ、被害者と接触するのに「安全」な方法があるかどうか判断する必要がある。隔離の具体例には次のようなものがある。

- ✓ 稼ぐ方法がないためにお金を加害者に依存する。社会的・地理的に友人から隔離される。
- ✓ 支援ネットワークがない。
- ✓ 加害者の脅迫により機関の支援を避ける。例えば、サービスに連絡すると子供が連れて行かれてしまう、または彼らは狂っているので誰にも信用されない、など。

特に脆弱、または社会的に隔離された被害者については、虐待が文化的文脈またはコミュニティの状況のものかどうかを検討する。例えば次の通りである。

- ✓ これが学校・職場・その他のイベントへの出席にどのような影響を及ぼしているか、質問してもよい。被害者の怖がっている者は外の活動に参加させないようにしているか？加害者が同伴せずに家を出ることを止められているか、または「家で監視されている」か？
- ✓ 被害者は家族の「名誉」を守れるかどうか心配しているか？加害者は文化的・宗教的責任からプライバシーを守らなければならないと言っているか？
- ✓ 拡大家族やコミュニティが虐待を助長していると被害者は感じているか？
- ✓ 加害者は被害者の性的指向・性別同一性を友人・家族・職場に暴露すると脅しているか？

一部のコミュニティまたは文化の内部においては、隔離が特に酷く、強制結婚のリスクにより強化される場合もある。兄弟姉妹や親などの通常の支援ネットワークは期待できず、性的攻撃や「不適切な関係」や結婚の破綻が女性・少女だけでなく家族にとっても「不名誉」と見なされている(Hayward 2000)。

Q5. 落ち込んだ気分であるか、自殺を考えていませんか？

実務上の要点:自殺の恐れのあるクライアントに取り組む場合は、彼らがどれだけ真剣かをチェックできなければならない。一部の被害者は虐待を終わらせる方法は自殺しかないと思い詰めているかもしれない。医療従事者は「自殺願望」と「自殺の意図」の区別について話をするかも知れない。自殺を考えることは、ストレスを抱えたとき、落ち込んだとき、大きなトラウマを経験したときなどには、それほど珍しくはない。自殺願望は願望から実行に移そうとする計画(意図)に変わったときに重大事項になる。

被害者が落ち込んでいるときや自殺の恐れがある場合に、収集を検討すべき重要情報の一部を以下に示す。

- ✓ 以前自殺未遂を起こしたことがあるか？
- ✓ 睡眠障害があるか？
- ✓ 被害者の自殺計画はどの程度具体的か？
- ✓ 被害者に支援ネットワークはあるか？
- ✓ 重度のアルコール中毒や薬物中毒の既往歴はあるか？
- ✓ 精神科治療や入院の経験はあるか？
- ✓ リソースや支援体制を活用することを嫌がっていないか？

クライアントが自殺の考えを述べた場合は、真剣に受け止めなければならない。医師の前でそのように表明した場合、その情報を機関や MARAC、その他の一次医療チームと共有する最終義務は貴方にある。被害者に対して主導権

を取って自分で支援を求めよう励まし、情報共有プロセスに参加することの意義を説明する。

自殺を考えているクライアントに対するアドバイスに組み込むことになる自分の機関の危機・安全計画をしっかりと把握していることが重要である。非常事態が発生するまで待つことなく、事前手続きやクライアントに提供できるリソースや照会ルートを知っておくこと。

Q6. この1年間、(.....)から離れている、または離れようとしていますか？

実務上の要点: 関係を終わらせようとする事と、親密なパートナーが殺人に及ぶことには強い相関がある (Websdale 1999; Regan, Kelly, Morris and Dibb 2007)。そのため、被害者ができる限り安全に別れるようにすることが大切である。離れるための方法について、緊急かどうか、または長期的計画の一環として考えるかについて、クライアントとよく検討する。研究では、女性は虐待関係から離れてから最初の2ヶ月間が特に危険であることが示唆されている (Wilson and Daly, 1993; 多部門家庭内暴力殺人レビュー調査からの ACPO 所見, 2003)。そのため、別れた時点以降の支援をクライアントに提案することが重要となる。この時期は被害者にさらなる暴力や殺人が降りかかるリスクが特に高くなる時であり、安全に別れる計画を細かく詰めることが重要となる。「名誉」を理由とする暴力の場合、別れは逃げ出すことであると被害者が気付く場合もありうる。

また、さらに他の質問につながる情報を探る必要があるかも知れない。例えば次のようなものである。

- ✓ クライアントがすでに加害者から別れている場合、別れたのはいつか？
- ✓ クライアントは今別れた状態か、別れようと計画しているか？
- ✓ クライアントが別れたら何かをすると加害者は脅しているか？例えば、(.....) は「お前が別れようとしたら」などと言っているか？
- ✓ クライアントはそれを怖がっているか？クライアントは家族へのプレッシャーや侮辱の恐怖から別れられないのか？
- ✓ クライアントは家族や雇用主に「ばらす」と脅されているために別れられないのか？
- ✓ クライアントが身体介護で加害者に依存しているために逃げ出すことができないのか？

場合によっては、別の人(家族・友人など)から被害者の居場所を見つけるための情報がないかと問い合わせがくることがある。つねにクライアントの機密を守り、クライアントをリスクにさらさないように、誰に話しても安全か、クライアントに確認することが重要である。

Q7. 子供と会うことについて争いがありますか？

実務上の要点: ある研究では、別れた女性の4分の3以上が以前のパートナーからさらに虐待や嫌がらせを受けており、特に子供と接触するときは女性と子供はリスクにさらされやすくなる (Humphreys & Thiara, 2003)。これは IDVA プロジェクトでの研究でも、別れた後も嫌がらせやストーキングが続くことが多いと、同じ結果が出ている。子供との接触は加害者にとって合法的に元パートナーと接触する機会なので、被害者と子供の安全を考える場合、非公式の接触と家庭の日常について検討して、被害者と子供がいつリスクにさらされるか判断する。次の点を明確にする必要がある。

- ✓ 子供が何人いるか、子供は現在の関係で生まれたのか、それとも以前の関係か？
- ✓ 加害者は保護者責任があるか？
- ✓ 子供との接触について(事務弁護士や児童サービスを通じた)正式な決まりや非公式の決まりがあるか？

- ✓ 子供が学校や課外活動に行っている場合、加害者はそれを知っているか？
- ✓ 被害者や子供はどこで治療を受けているか？加害者はそれを知っているか？
- ✓ 加害者は子供を誘拐するとか危害を加えると脅しているか？
- ✓ クライアントを児童サービスや家庭裁判所に「悪い母親」として通報すると脅しているか？または子供がクライアントの許から引き離されると脅しているか？
- ✓ 子供を海外に送るか、他の文化的・宗教的手段で親権を得ると脅しているか？
- ✓ 「子供を取るために」クライアントの性的指向を裁判所やサービスの場で暴露すると脅しているか？

こうした情報は貴方の所属機関(や MARAC)にとって安全計画・リスク管理計画に取り込むべき重要な情報であり、これらは刑事制裁や民事制裁において、保釈条件、禁止命令、妨害・占有禁止命令、児童法による命令などに組み込むことができる。

Q8. (.....)は日常的にあなたにメールや電話や接触をしたり、あとを付けたりストーキングや嫌がらせをしたりしていますか？(何をされたか、あなたを脅そうと故意に行われたと思うか、にまで掘ってください。状況や行動のし方も考えてください。)

実務上の要点:必ず被害者に対して加害者の行動について質問すること(加害者は複数の場合もあることを意識する)。被害者がストーキングされていると感じている場合は、何があったか明確に説明してもらうよう依頼する。虐待には何らかのパターンがあるかどうか尋ね、事件の記録を取っておくよう依頼すると有効である。これは刑事裁判や民事裁判では証拠として有効である。ストーキングは別れた時期には頻繁に発生するが、カップルがまだ一緒にいるときでも虐待関係の中で発生することもある。次の項目は、嫌がらせやストーキングがある場合で、さらに暴力が行われる徴候となる高リスクファクターである。

- ✓ 離別中や別れた後に被害者を捜す
- ✓ 財産を故意に破壊する
- ✓ 職場・家・学校に予告なく現れる、またはうろつく
- ✓ 被害者を追跡する、または周りをうろつく
- ✓ 被害者や他人に対して自殺、殺人または性的暴行の脅迫をする。例えば「彼女は自分だけのものだ」など。
- ✓ 継続して執拗に電話、手紙、メールを送る
- ✓ 手紙・ノート・物品・「プレゼント」を送る
- ✓ 他人に助けを頼む
- ✓ ストーキング事件中に他人に暴力をはたらく
- ✓ 何らかの記念日や誕生日に接触してくる

関係でできた子供も、クライアントへの嫌がらせやストーキングをするために利用されることがある。加害者はクライアントをリスクにさらしかねない情報や物品を子供から手に入れることもある。例えば次のようなものである。

- ✓ 建物の鍵
- ✓ 新しい職場、学校、住居などの住所

Q9. 妊娠中ですか？また最近子供を産みましたか？(18ヶ月以内に)

実務上の要点:はいの場合は、妊娠中か産んだばかりかを注記する。次の質問に答えてもらうことで状況がはっきり

する。

- ✓ 出産予定日はいつ頃か？
- ✓ 加害者は妊娠について知っているか？彼の子供か？
- ✓ 加害者はクライアントの腹部を狙って攻撃や虐待をしてくるか？
- ✓ 助産師などの専門家は妊娠と家庭内暴力について認識しているか？
- ✓ 被害者は妊娠についてどう思っているか？計画通りの妊娠だったか？

被害者はこのまま妊娠状態を続けるかどうか悩んでいる場合が多いことに気付くはずである。この件についてクライアントと話し合う準備をしておき、被害者を妊娠アドバイスサービスに照会できるようにしておき、あらゆる選択肢を検討できるようにする。一部のクライアントは妊娠していれば身体的危害を加えられずに済むと言うことがある。妊娠中だけパートナーが身体的虐待をしない時期であるからである。妊娠について集めた補足情報をもとに、出産と出産後の子供の安全計画を確立する。

子供がいると女性への家庭内暴力のリスクが増大する(Walby and Allen 2004)。リスクと世帯内の子供の数との間には有意な相関があり、人数が多いほどリスクが高くなる(Barnish 2004, Sidebotham and Heron 2006, Hindley, Ramchandani and Jones 2006)。子供の存在が女性の安全対策を取る能力にどう影響するか、また彼女の加害者への依存度を高めるか、検討すべきである。

継子がいると、その子供や女性のリスクが特に高くなる(Garcia and Soria 2007, Brewer and Paulsen 1999, Cavanagh et al 2007)。(血縁的に加害者の子でない)継子がいる場合は、次の質問をして、児童サービスへの照会を検討した方がよい。

- ✓ 加害者と継子の関係はどうか？
- ✓ 加害者から継子へ虐待と思われる行動はあるか？

幼い子供は家庭内暴力が起こる状況では非常に弱いのは明らかなので、子供のさらされるリスクと母親のリスクを両方とも考慮しなければならない。ロンドン児童保護評議会の手順では、生後 12 ヶ月未満の子供の母親に対して 1 回でも家庭内暴力が行われた場合(子供がその場にいたかどうかを問わない)、専門家は現地の児童ソーシャルケア機関に照会しなければならない。一方で別の研究では生後 18 ヶ月未満の子供がこのような状況においてもとても弱いとされている。

妊娠中の女性に対する虐待も胎児への虐待となる。胎児も児童保護手続きの対象となる。サービスではいつそのような状況を児童サービスに照会するのが適切か検討する必要がある。

Q10. 虐待の頻度が増えていますか？ Q11. 虐待はひどくなっていますか？

実務上の要点: 過去の家庭内暴力歴は、今後家庭内暴力を起こすかどうかを示すもっとも有効な指標である。初めて家庭内暴力を起こした世帯では、35%が 5 週間以内に 2 回目の家庭内暴力事件を起こしている(Walby and Myhill 2000)。「言葉」の暴力の場合、兄弟姉妹を含む家族への暴力歴が非常に相関する。クライアントが質問に答えやすいようにするには、次のようなことを質問する必要がある。

- ✓ 最後の事件はいつ？
- ✓ この 1 年間に何回起こったか？頻度が上がっているか？
- ✓ 前の事件よりひどくなっているか？そうならどのくらい？

こうした質問をすれば、より明確で具体的な答を引き出せるので、リスク管理計画が作成しやすくなる。クライアントに日記を付けるか、または出来事の記録を取っておくよう提案して、回数や程度のエスカレートを記録できるようにすることも有効である。

Q12. (.....)はあなたのやることすべてを管理しようとしていますか？非常に嫉妬深いですか？(関係については、家でも見張られていると感じますか？例えばあなたの着る服を命令するなど。「名誉」を理由とする暴力を考え、行動を指摘してください。)

実務上の要点:最近の研究(Regan, Kelly, Morris and Dibb 2007)では、高圧的な支配や嫉妬から来る監視がリスク指標として重要であることが提起されている。この質問から出てくる情報は隔離に関する質問と一部重複する場合もある。次のようなヒントが有効である。

- ✓ 加害者が支配的な場合、彼らは何をしているか？支配的行動としては次のようなものがある。
 - 時間や居場所について説明させる
 - 家族友人から隔離する
 - メールを盗み見・電話を勝手に取る
 - 不貞を責める
 - 薬の服用をさせない
 - 極端な優位性
 - 家から出さない
 - 被害者が通報したら子供が連れて行かれると脅す
 - 非常に嫉妬深い。「彼女は自分だけのものだ」
 - 被害者の宗教を利用して支配する
- ✓ 例えば他の家族や友人など、他人にこれをやらせている？例えば他の家族や友人。
- ✓ 「名誉」を理由とする暴力の検討 - 被害者は「通常の」選択の自由がなく、家ではひどく「監視」されるか加害者と同伴でなければ家を出られないか、または子供が被害者の行動の管理に利用される。特定のコミュニティでは容認されず、深刻な危害や殺人のリスクにつながりかねない行動がある。
- ✓ 新しいパートナーや元パートナー、他の家族、同僚など他人に対して乱暴な振る舞いをしたことがある？
- ✓ 加害者が誰かの性的指向や性別同一性を利用して支配・虐待するかどうか検討する(例えば LGBT だから虐待を受けても仕方ないとか、誰も助けない、信じない、または友人、家族、同僚に性的指向や性別同一性をばらす、などと言っているかどうか)。または、被害者の性別同一性や性的指向に疑問を呈して罪の意識や負い目を感じさせようとする。

専門家として加害者に接触する場合は、あなたも支配しようとするかどうか考慮してください。

加害者の被害者に対する支配力を把握したら、次に、今後被害者と話したり会ったりするためのチャンスを探す。

Q13. (.....)はあなたを攻撃するために武器や物を使ったことがありますか？

実務上の要点:補足的な質問としては次がある。

- ✓ いちばん最近の事件では武器が使われた？
- ✓ 加害者は友人・知り合い・勤務会社など武器の入手経路を持っている？

- ✓ 加害者は軍隊や武術のトレーニングをしている？
- ✓ これはクライアントや IDVA に大きな影響を与えるか？

武器として使える「物」の例を提示して、クライアントが質問を状況と結び付けやすくするとよい。そのため、質問ではナイフ、銃などの武器だけでなく、武器として使える日用品も対象となる。例えば

- ✓ タオル掛け
- ✓ 灰皿
- ✓ 子供のおもちゃ
- ✓ 家のペット

この情報は、被害者へのリスクだけでなく、家を訪問したり加害者と接触したりする専門家へのリスクを特定するのに有効である。場合によっては警察や家を訪問する可能性のある他の専門家にも知らせる必要がある。案件を MARAC に照会する場合、この情報は専門家に注意を喚起して彼らの所属機関に記録しておき、家を訪問するスタッフに伝わるようにすべきものである。

Q14. (.....)はあなたか誰かを殺すと脅したことがありますか？あなたはそれを信じましたか？

実務上の要点: 追加質問として次が有効である。

- ✓ 誰がクライアントを殺すと脅しているか？こうした脅しは家族、拡大家族、「名誉」の文化を持つコミュニティなどに所属する複数のメンバーから行われる場合がある。
- ✓ 加害者はどのような脅しをしているか？クライアントや他の人をどのように殺すと言っているか？
- ✓ 他の誰を殺すと脅しているか？(子供、パートナー、ペットなど)
- ✓ 加害者は他の誰かに対してクライアントや他人を殺すと言ったことがあるか？時々この種の脅迫は警察や保護観察官など第三者に対して行われる場合がある。

被害者が告白した脅迫を過小評価しないことが重要である。被害者の一部は殺人の脅しを軽視することもあるが、この場合は、被害者が脅迫を本当に怖がっているかどうか、2 番目の質問で検証することが大切である。

被害者がこうした脅迫を警察に報告しようかどうか考えている場合は、警察が取れる行動について彼らの期待を制御することが重要である。場合によってはサービスとして、現地のコミュニティ安全局・家庭内暴力局・公衆安全局などと、殺人の脅迫の容疑を立証するためにどんな証拠が必要か議論する必要がある。

Q15. (.....)はあなたを絞め殺そうとしたり窒息死させようとしたり溺れさせようとしたことはありますか？

実務上の要点: このリスクの深刻度を測るのに、補足質問としては次が有効である。

- ✓ いつ貴方は絞殺・窒息し・溺死させられそうになった？
- ✓ 相手は何をした？(靴紐などの道具を使ったか、手を使ったか？)
- ✓ どのくらいの頻度でやるか？
- ✓ 気絶したことはあるか、またはいつも気絶するか？

こうしたことがあった場合は、非常に深刻に考えるべきである。

Q16. (.....)は性的意味のあることを言ってあなたを不愉快にさせたりあなたや誰かを傷付けたりしますか？(他人なら誰か教えてください)

実務上の要点:これは特に初めて話す場合には、被害者に聞きにくい質問である。次のように質問を工夫するとよい。

- ✓ 過去に話し合ったことのあるクライアントの方々は、パートナーや元パートナーから性的なことをされたり言われたりして、不快になったり怪我をしたりしたことがあると言っていました。貴方は何か同じようなことがありましたか？

被害者がはいと答えた場合は、次のようなヒントを与えて詳しく調べるとよい。

- ✓ 何があったか？レイプや性的虐待や脅迫は、必ず被害者にそのようなものとして認識されるとは限らない。そのため、医師として、クライアントの受けた性的虐待の範囲について、クライアントと話し合えることが重要である。次のようなことが含まれる。
 - 性行為の脅迫や圧力。武器の使用も含む。
 - 性的な侮辱。
 - 望まない性的接触。道具の使用も含む。
 - セックス中に苦痛を与える。
 - 子供への性的虐待。
 - 子供やクライアントにポルノグラフィーを見せる。
 - 避妊具の使用や安全なセックスを拒否する。
 - 写真やビデオを撮って悪用する。それを友人・家族・同僚などに見せると脅す。
 - 被害者に他人とセックスするよう強要する、または売春を強要する。
- ✓ 被害者が受けたことのある性的虐待がどのようなものか把握したら、次の点を明らかにする。
- ✓ いつ起こったか？頻度はどのくらいか？
- ✓ 加害者は何をしたか？
- ✓ 被害者はこのことを誰か、または警察に話したか、医師の診断を受けたか？
- ✓ 加害者は子供や過去のパートナーなど他の人に同じことをしたことがあるか？
- ✓ クライアントは性的暴力が原因の性感染症や妊娠を心配しているか？

最近暴行があった場合は、現地 SARC・A&E・警察に、さらなる医学調査や法的調査を要請することができる。

Q17. 他に誰かあなたを脅す人やあなたの恐れる人はいますか？(いるなら、誰か、またなぜか教えてください。

HBV の場合は拡大家族に拡げてください)

クライアントは他の誰かを怖がっていることもあれば、貴方の予想よりもはるかに怖がっている場合もある。彼らはある文化では問題なく受け容れられるが、彼らの文化では受け容れられない行動の例を引き合いに出すかもしれない。「名誉」を理由とする暴力に関連する例としては次のようなものがある。

- ✓ 公共の場での喫煙
- ✓ 奇抜なメイクや服装
- ✓ 無断欠席
- ✓ 家族やコミュニティからは認められない関係性
- ✓ 宗教や宗教教育の拒絶

- ✓ 見合い結婚の拒絶
- ✓ 結婚前の口論や婚前交渉・不倫
- ✓ 家庭内暴力の通報
- ✓ 逃亡
- ✓ 性行為 – 公共の場での会話、キス、親密な行為
- ✓ 婚外妊娠
- ✓ 不本意に移民協力者になること
- ✓ 離別・離婚しようとする事
- ✓ 性的指向(ゲイ、レズビアン、バイセクシャルまたはトランスジェンダーを含む)

これはリスクだと考えた場合は、女性の親戚を含む親類が、虐待や殺人を共謀、支援、教唆または参加しかねないかどうか判断する必要がある。例えば、年長の家族成員が逮捕されるのを避けるため、また犯罪者でも若い方が罪が軽くなるので、若い親戚が選ばれることがある。時に殺し屋(賞金稼ぎ)が雇われることもある。

被害者のパートナー、子供、同僚、兄弟姉妹などもリスクにさらされるかどうか検討しなければならない。

専門家はリスクの性質について次のファクターと、彼らのやりそうなことを調査し、安全計画の一部として行動を評価する。

- ✓ 現在進行中の加害者と被害者の関係やつながりが将来の虐待につながり、助けを求める行動の妨げになること
- ✓ 他の親類も同じような事件に巻き込まれること
- ✓ 拡大家族の強いネットワーク
- ✓ 家族が被害者を捜してプレッシャーをかけかねないこと
- ✓ 家族が被害者を排除または誘拐するかもしれないこと。被害者を海外に連れ出すことも含む
- ✓ 新しいパートナー・元パートナーへの脅迫
- ✓ 被害者が家庭内で他の人を虐待したことがあるか、または暴力行為をはたらいたことがあるか

Q18. (.....)が誰かを怪我させたか知っていますか？(誰か教えてください。子供、兄弟、高齢の家族なども含め。HBVも考慮)

実務上の要点: 加害者は誰彼かまわず暴力を振るう傾向がある。研究では、攻撃を繰り返すのは加害者の行動パターンの一部になっている傾向があり、これは一生続いて、被害者は兄弟姉妹、クラスメート、デートの相手、他人、パートナー、職場の同僚などが選ばれる(Richards 2004, Fagan, Stewart and Hansen 1983, de Becker 1999)。

明らかになった情報から、家族に対してどの支援機関が関与しなければならないかが分かる。児童・青少年サービス、成人弱者保護チームなどである。

次の点を特定することが重要である。

- ✓ 他の被害者は誰か？
- ✓ 被害者が子供の場合、いつ、どのように危害を加えられたか？
- ✓ 他の被害者の現在の所在
- ✓ 子供の生年月日(本人確認目的)

Q19. (.....)は動物やペットを虐待したことがありますか？

実務上の要点: 専門家間で動物への残酷性と家庭内暴力には相関があるという認識が高まっている(Cohen and Kweller 2000)。家庭内暴力や虐待に苦しむ家族では、ペットの虐待やその脅迫により、支配者・加害者側が他の家族に同調させたり沈黙させたりすることが多い。暴力は親密なパートナーへの暴力や、幼児虐待(身体的または性的)、または老人虐待の形になる場合もある。

避難所・緊急宿泊所にはペットを連れて行けないので、この点は被害者がそうした施設に入る意思があるかどうかにおいて重要なファクターとなる。そのため、別の選択肢としては家族全員を収容できる施設を探す必要がある。動物飼育サービスを行っている組織もあるので、ペットを受け容れる施設を被害者が見つけるまで預かってもらうこともできる。

Q20. 金銭的問題はありますか？例えば、金銭的に(.....)に依存していますか？(.....)は失業しましたか？それ以外の金銭的問題は？

実務上の要点: この質問は、隔離の程度や、加害者の被害者支配の度合いにも暗に踏み込むことになる。この点を考慮して、次のような質問をして金銭的管理や問題を明らかにする。

- ✓ 被害者が公共資金にアクセスする点で何か問題はあるか？公共資金に頼れない被害者は、金銭的援助について配偶者に完全に依存することになる。
- ✓ 彼らが共同で手当などを請求しているかどうかチェックする。収入の少ない、またはない被害者は、自分の権利である分を請求することを加害者から止められていることがある。
- ✓ 加害者は共同資金や家計へのアクセスを制限・差し止め・禁止されているか？
- ✓ クライアントは無理矢理ローンを引き受けたり抵当条件を変更したりさせられ、返済や債務不履行の責任を負わされているか？借金が誰の名義になっているかチェックする。

安全なオプションを検討する際、医師は必ず財政について考慮する。福祉助成金や調整手当について機関と交渉して、被害者が住居や住居への移動の費用を入手できるようにする必要があるかもしれない。状況によっては、年金や債務管理について相談を受ける必要がある。

Q21. (.....)はこの1年間に薬(処方薬その他)、アルコール、精神衛生で問題を抱えて日常生活が困難になったことがありましたか？(はいの場合どれかを選び、ご存じなら詳しく説明してください。)

実務上の要点: これは去年に違法ドラッグ、アルコールまたは処方薬で問題を起こし、社会的機能(健康や社交性など)に障害を負ったかどうかという、深刻な問題に関わっている。加害者の鬱病にも関連する(Regan, Kelly, Morris and Dibb 2007)。

被害者はアルコールやドラッグが加害者にいかに影響を与えるか痛感しており、加害者の虐待はその乱用が原因だと考えている場合もある。被害者は警察や機関に通報すると加害者が薬物に関与または使用していることがばれるため、通報したがることもない。彼らは自分が罪に問われることや、加害者からの報復を恐れているかもしれない。この質問は慎重に考え、この問題に関して被害者の懸念がどこにあるかに注意を払う必要がある。被害者と加害者は同じような薬物を使用している可能性もあり、そのため同じサービス、供給業者または場所に通っている場